

口頭②

湿布薬で出来るサポート

河田町店
○伊佐治 亜衣
岩崎 藍子
中村 沙織

【目的】

河田町店では東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センターからの処方箋が 6 割以上占めている。そのため、湿布薬が処方されることが多い。しかし、患者から湿布薬の質問を受けるが答えられない事があり、知識が不十分であることがわかった。そこで、本研究では患者に対して貼付部位やはがれやすさ、貼りづらさなどのアンケート調査を実施し、患者が困っている項目に対する服薬サポートの向上を目指す。

【方法】

- ① 職員アンケートにて湿布剤に対する理解度・指導内容を調査した。
- ② 患者に対して湿布薬使用時の困っている項目についてアンケート調査を行った。

【結果・考察】

職員アンケートの結果、副作用のチェックは内服薬を中心に聞き取りを行っており、内服薬に比べ湿布薬に対しては毎回聞き取りを行っている職員があまりいなかった。また、皮膚症状が中心で使用感の聞き取りまで行っている例は少なかった。

患者アンケートを通して、継続して使っても発赤や掻痒だけでなく、はがれやすさ、貼りづらさを気にされている方が多いことがわかった。また、アンケートから実際使用しているからこそ気になる点も見えてきた。

上記結果を考慮し、職員間でも貼付を行い使用感やにおいなどを実際に確かめ、湿布薬一覧の冊子を作り、湿布薬の服薬サポートの向上を図った。